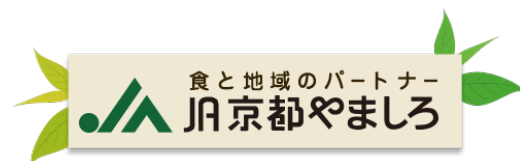
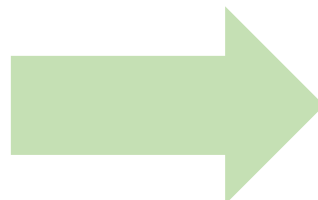




JAの出荷情報をより早く、より手軽（データ）に出荷先事業者へ共有することで最適な販売、流通を実現



荷受・出荷データの
共通システム（電算システム）
への取り込み



出荷データ

卸売会社（荷受）



システム連携による
基幹システムへの取り込み



販売先への
事前提案販売の強化



出荷データ連携のメリット② 荷受業務のDX

産地との連携により、荷受事業者における荷受登録業務の省力化、及び標準化が実現できます

初回入荷時

荷受毎にフォーマットの異なる紙やFAXの送り状から登録項目探して、それぞれ該当する自社システムのマスタを選択し、一つずつ手入力していく。



紙・FAX



このJAの商品Aはうちのシステムの商品A'で、等級○は○、階級8Mは8玉で、荷姿は・・・

その他、数量、入数、量目などを手入力

2回目以降

同じ荷受登録作業を毎日荷受入力担当者が繰り返す



初回入荷時

出荷明細をそれぞれ同じ形式でデータで受け取り。新しい情報はnimaru上で必要項目を手軽にマッピング。数量や入数、量目などの手入力作業も発生しません。



データ



nimaru上で整理された情報の各項目を手軽にマッピング

その他、数量、入数、量目などは自動入力

2回目以降

一度マッピングされた情報は2回目以降、自動でマッピングされるため、取り込み処理のみで荷受登録が完了。



既存の荷受登録

新しい荷受登録



デモをご覧ください

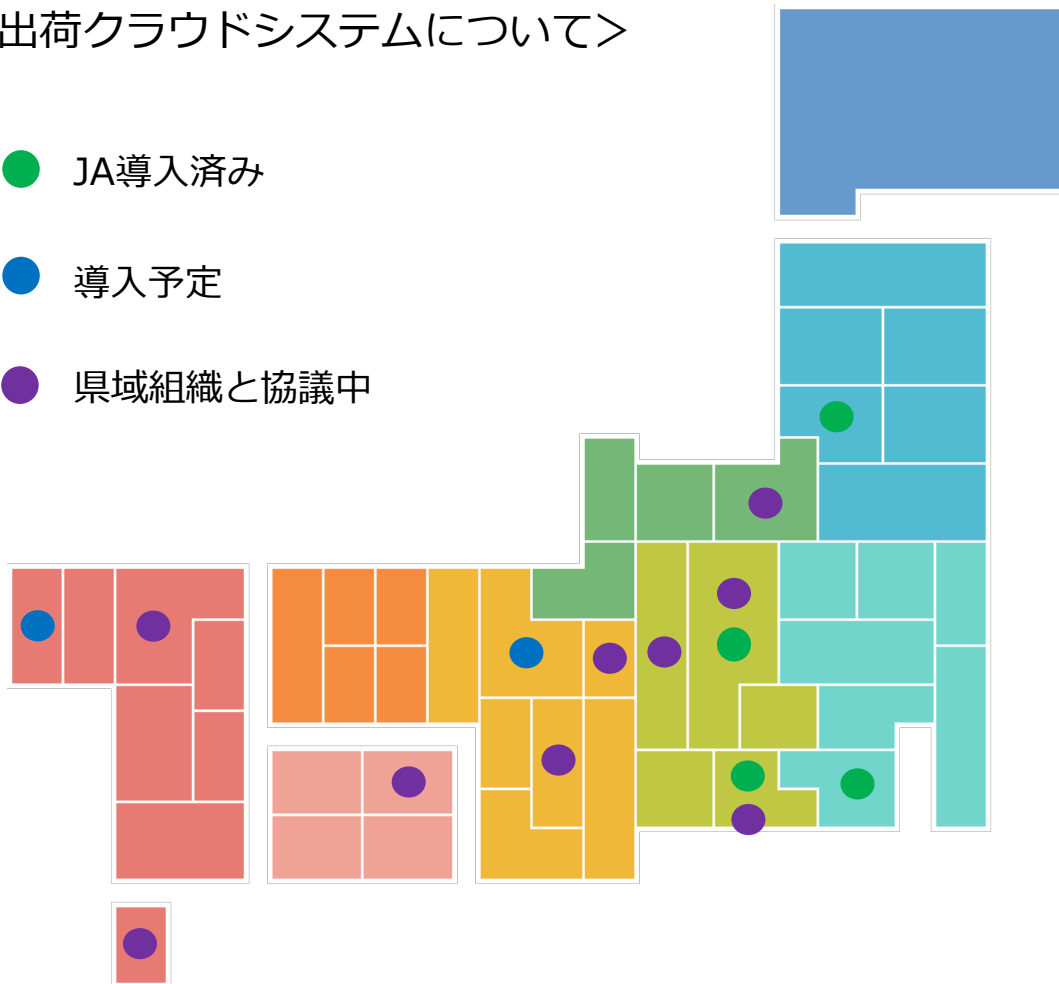


今後のプラットフォーム普及に向けた戦略 ～nimaruJAの導入推進～

昨年度からシステムリリース後、主要産地における県域単位での導入についてもお検討をいただいております

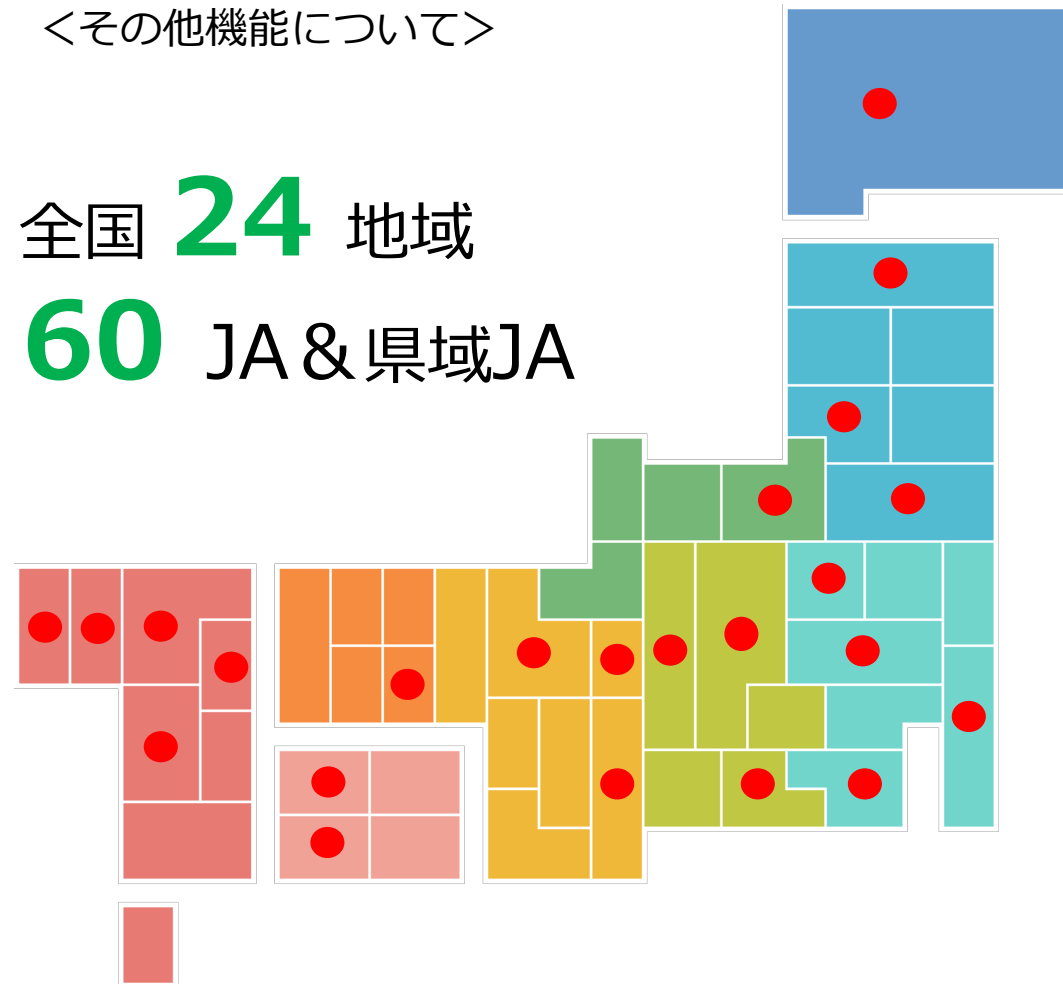
<集出荷クラウドシステムについて>

- JA導入済み
- 導入予定
- 県域組織と協議中



<その他機能について>

全国 **24** 地域
60 JA & 県域JA

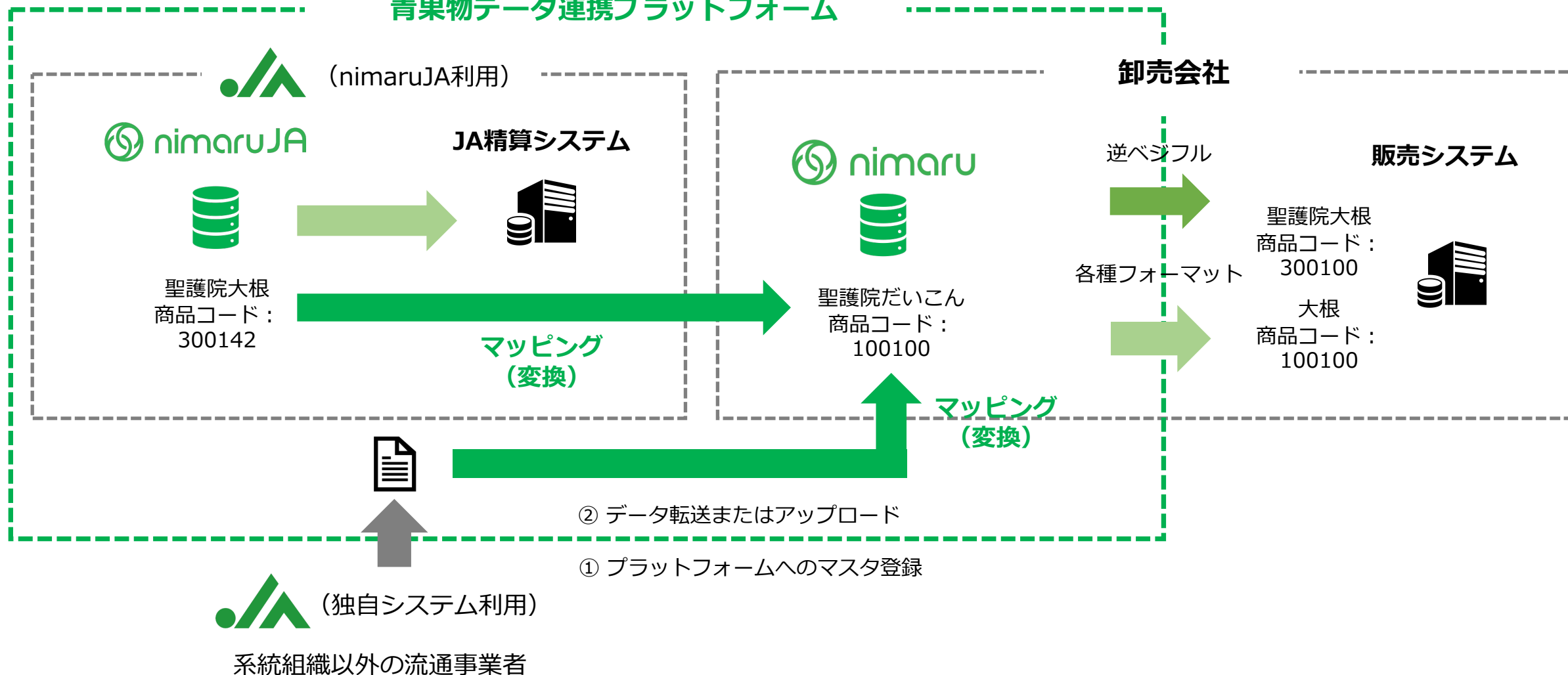




今後のプラットフォーム普及に向けた戦略② ～外部システムとの連携～

外部システムからのデータ転送（またはアップロード）によるマッピングの機能提供

青果物データ連携プラットフォーム

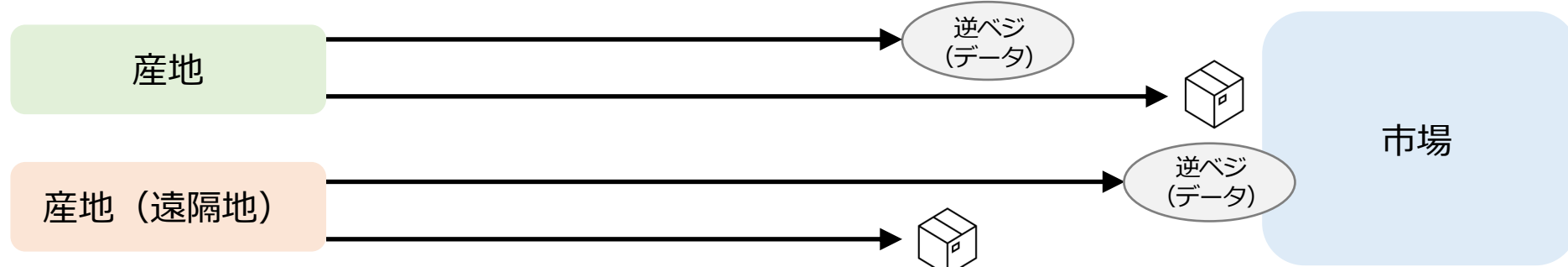




参考 ～逆ドレスシステム（逆ベジ）の課題～

系統出荷の出荷データ連携手段の一つである逆ベジの利用率は全国で1-2割程度にとどまる

- 遠隔地を除くJAについては、逆ベジの情報が荷物の到着よりも遅い



- 産地および市場の双方で専用端末による入力が必要なケースが多く、現場の担当者が利用していない（または実際の分荷のタイミングと入力のタイミングに時間差があることが）場合も多い

とりあえず現場では紙やExcel、電話とFAXで処理して、後でまとめて事務所でシステムに入力しよう



JA現場担当者

事務所に上がらないと（専用端末）情報が見れないので、産地に電話（LINE）で確認しちゃおう



卸売会社営業担当者

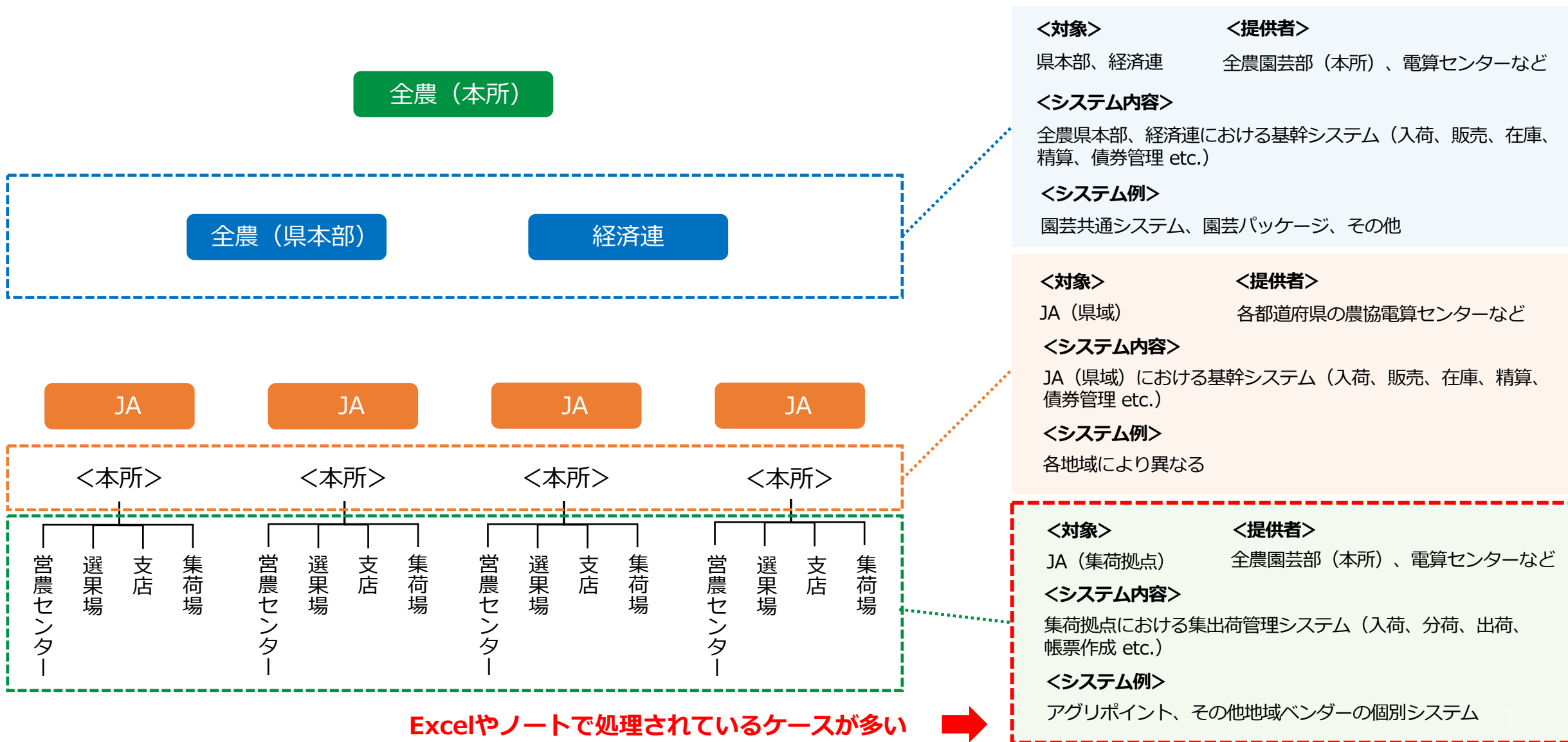
データが実際の荷物と異なっていることも多いので、取り込みは行っていない



そもそもベジフルネットは精算情報のやり取りをベースに40年以上前に構築されたネットワークであり
情報の性質が異なる出荷の情報を同じネットワークで行うことに限界がある？



参考 ～JAグループにおけるシステムの整理と課題～



皆様からのご意見・ご質問などございましたら
お願いします